

ロンドン自治区におけるコミュニティ図書館

—社会的包摂概念の視点から—

Community Libraries in London Boroughs: From the Perspective of Social Inclusion

学籍番号：201821621

氏名：土屋 深優

Tsuchiya Miyu

近年、イギリスにおいて、公共図書館閉館の急激な増加と地方分権を背景に、コミュニティ図書館と呼ばれる運営形態が登場した。コミュニティ図書館とは、ボランティアを主とするコミュニティが、継続的に図書館サービスのコアとなる部分及び運営に参加する運営モデルである。また、人々や地域が複合的な要因により苦しめられ、つながりから排除される「社会的排除」の概念が1997年以降イギリスの政策に取り入れられた。社会的に排除された人々を社会に包摂する「社会的包摂」への取り組みは公共図書館においても受け入れられ、現在においてもデジタル・インクルージョンを中心として様々な施策が展開されている。

本研究は、社会的包摂概念を通してコミュニティ図書館の取り組みと意義を明らかにすることを目的としている。また、事例としてロンドン自治区及びシティ・オブ・ロンドン（以下合わせてロンドン）を選択した。

研究方法として、文献調査、ロンドンのカウンスルに対するアンケート調査、コミュニティ図書館館長に対するインタビュー調査を行った。

調査の結果として、ロンドンの公共図書館では社会的包摂の概念が浸透しており、デジタル・インクルージョンも反映された取り組みが行われていることが明らかとなった。

コミュニティ図書館では、社会的包摂概念に対して「場」を重視した取り組みが行われており、図書館は人々が集い、交流するコミュニティ・ハブとして機能していることが明らかとなった。また、コミュニティ図書館は地域の公共図書館の閉館をきっかけとして設立されており、地域の図書館を存続させるという役割を果たしている。図書館が存続することで地域住民の情報やリソース、サービスへのアクセスを保証している。更に、ボランティア活動に参加することでスキルや自己肯定感の向上が見られ、就労に繋がる事例も存在した。

コミュニティ図書館はイギリスにおける新たな図書館運営のモデルとして、社会的包摂に貢献していることが明らかとなった。

研究指導教員：溝上 智恵子

副研究指導教員：吉田 右子